

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 生涯学習課

会議の名称	令和4年度 第3回茅野市社会教育委員の会議		
開催日時	令和5年3月8日（水）午前10時00分～午前11時15分		
開催場所	市民活動センター（ゆいわーく茅野）		
出席者	矢崎美知子委員（委員長）、大作公明委員（副委員長）、市川純章委員、古畑祐二委員、長田秀子委員、宮坂章委員、矢崎智義委員 山田利幸教育長、北沢政英生涯学習部長、五味留美子こども部長、竹内こずえ生涯学習課長、武居直樹同生涯学習係長、柳平美穂同生涯学習係主査、畑中紀之教育指導主事、伊藤利恵文化芸術担当、両角勝元中央公民館長、両角香代同教育係長、今井祐子家庭教育センター館長、五味一男図書館長、北澤ゆき子同係長、五味健志文化財課長、小池岳史同文化財係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同係長、柳川英司同神長官守矢史料館担当、伊藤善彦スポーツ健康課長、内山誠治同係長、宮下孝こども課こども係長		
欠席者	金田照俊委員、名取哲男委員、宮坂雅昭委員、山科哲尖石縄文考古館係長、鵜飼幸雄神長官守矢史料館長、阿部香織こども課長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習課長	1 開会 今日の会議につきましては、まだ新型コロナウイルスの対策もありますので、マスク着用で進めさせていただければと思います。合わせまして、皆様からのご発言の際にもご協力をいただければと思いますのでお願いいたします。また、今日の会議につきましては、1時間程度を予定させていただいておりますので、11時ごろ終了を考えておりますが、よろしくお願いたします。それでは、ただいまから、令和4年度第3回社会教育委員の会議を開会いたします。		
教育長	2 教育長あいさつ 今日はお集まりいただきありがとうございます。八ヶ岳総合博物館で講演がありましたときに講師の先生から、コロナで全国の博物館関係がかなり閉館したり、活動を縮小したりせざるをえない状況にあるというようなお話を伺いました。その中で、茅野市の場合、博物館や公民館活動などアフターコロナに向かって、今年度はかなり力強く活動してきたと思います。今日はその実施状況についてご報告して、またご意見を伺いたいと思います。大きなものだけあげてみますと、尖石縄文考古館の70周年、公民館では、地区ごとに2回に分け、分館長さんはじめ、分館関係者の研修会を開きました。スポーツ健康課の関係では、体育施設の整備をかなり進めました。図書館では、県と連携してデジタル化を開始しました。また利		

	<p>用者が多い図書館作りをさらにしていきたいとの希望があります。大きくは以上になりますが、細かい点についてご報告がありますのでよろしくお願い致します。それから新たな動きとして、北部中学生徒会の子どもたちが分館活動に参加して、ともに公民館活動を担っていこうということで、2月に行われた分館職員研修会で、お願いと決意を発表しました。もう一つ、東部中学校も、新たな生徒会活動を地域とともに生涯学習を進めることを出しています。以上ですがどうか今日はよろしくお願い致します。</p>
<p>委員長</p>	<p>3 委員長あいさつ      皆さん、おはようございます。季節もようやく春めいて参りました。本日はお忙しい中会議に出席いただきましてありがとうございます。事前にいただきました資料を一読させていただきましたが、コロナで制限もある中、多くの活動が実施され、成果が見られましたことに本当にうれしく思っております。社会教育の充実が人と人を繋いで、また社会をつなぐとことで、茅野市の皆様の元気の源になっているのかなと思っております。今日は委員の皆様には、日頃感じていることやご意見、ご助言等をいただきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。</p>
<p>生涯学習係長</p>	<p>4 会議事項      (1) 審議会の公開について      審議に先立ち、審議会の公開について事務局から説明を行う。      ～資料1の説明～      本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行う。      非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とする。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開する。      (承認)</p>
<p>生涯学習係長</p>	<p>(2) 令和4年度社会教育委員事業実施報告について【資料1】      資料1に基づき、事務局から説明を行う。</p> <p>(3) 令和4年度茅野市社会教育に関する成果及び課題の状況について【資料2】      資料2に基づき、各課・施設から一括説明を行う。</p>
<p>委員</p>	<p>(4) 意見交換      茅野市少年育成委員の選出について、例えば委員が見つからなくて、負担軽減を考えるとという話があるが、育成委員の負担が、年々増えているから軽減が必要なのですか。それとも何かやっている人がだんだんしんどくなってきた、やっている人の方に何か負担に感じる要因が増えているのか。業務そのものが増えているのかというこの辺はどんな背景なのですか。</p>
<p>こども係長</p>	<p>この負担軽減の負担というところで言いますと活動自体に対する負担は、以前に比べると減ってはきているのかなと思うのですが、なり手が不足している中で、現状の委員さんが次の方を探すということの負担が大き</p>

委員	<p>いということ課題をとらえています。</p> <p>何か仕事が増え負担感が増えているのではないということがわかりました。その仕事が増えているのではなく負担感があるとすると、委員の方に何か負担を感じる変化があるからそこを対処しないと、みんな負担だらけになってしまうのだらうなと思って。でも負担軽減したらその仕事やらなくてもいいと最後になってしまうので、何かおかしいよなと思うので、その負担という考え方、もっと何か根っこを見ないといけないのかなと思ったりはしています。</p> <p>事業全般について昔から思っていることが、マーケティングの言い方はちょっとなじまないのですが、市民のどなたが来ていただいているのかみたいな、人数だけでなく、どの辺が来ていただいているのか、逆に言うと、どの辺が来ていただけていないのだらうかというのは把握できないかという意味です。というのは、市民のためにやっているのに、全然かわらない市民が一部にたくさんいたとしたら、その人から見るとその茅野市がしていることを知らないし、いらぬという気持ちになるのではないですか。だから一つは目標として、事業をしているところに全然関わらない人を減らしていくようにすることも、大きな目標になってくれるといいなと思います。そうすると、何かその人に合っていないことを、足りていないから、来ていないのかなとか、いろんなことを考えたが目安は、かかる人、茅野市が行う事業とかで教養アップとかそういうところに関わる人がどんどん、増えていくことの人数ではなく、来ない人がいなくなっていくような目標というのがあると良いかな。でも、これは難しいと思うので、これからデジタルツールが出てきているので、誰がということ、匿名性を担保しながら把握するのは難しいですが、デジタル的な出席を取るとかそういった工夫の中で、どの辺が来てくれているのか、どの辺が来てくれていないのかということまでわかるようになると、一つの次の目安かなというのは、長年思っております。</p>
委員	<p>学校という立場でお話をさせていただきたいと思いますが、茅野市の文化芸術推進事業におきましては、コロナ禍の中でやり方を工夫していただいて、子どもたちに文化芸術に触れる、そんな機会を与えていただきまして本当にありがとうございました。それから先ほども話がありましたが、このこども版まちづくり懇談会の方に私も参加させていただきました。まちの次世代を担う中学生が、自分のまち、茅野市のためにこの思いを自分の言葉で表現していることにとっても感激をしました。またこの他にもいろんな事業の中で、教育場面において、本当にいろいろお世話になりありがとうございました。子どもたちが、市の中で育ち育てられて、そして自分のまちの未来に貢献していくのだということを、考える場面をたくさんいただいたかなと思います。またそんな好循環を、学校としましても生まれるように地域とともに積極的に活動するそんな場面を作っていただきたいなというふうに思っております。ありがとうございました。</p>
委員	<p>中央公民館の老朽化とありましたが、あるものを使い工夫や修繕をして、</p>

<p>中央公民館長</p>	<p>使われればいいのかなと思っています。耐用年数の近い施設との複合化を検討し、総面積の縮小を図る方向とあるが、縮小を図る方向について、具体的に教えていただけてよろしいですか。</p> <p>耐用年数が、各施設、違うものですから、例えば、中央公民館の隣にありますが宮川地区コミュニティセンターは（公民館と）耐用年数が違いますし、隣にあるからといってくっつけるというわけにはいきません。図書館と公民館は耐用年数がほとんど同じですから統合していくとか、いろんな方法があると思います。耐用年数を含めて、施設の運営（や場所）等課題はあります。例えば宮川地区コミュニティセンターの機能を公民館へ移して、センターは他の施設として使うというようなことになれば、中央公民館としての機能が縮小されるのですが、そういったことで複合化ができるかと。そんなような意味合いで書かせてもらっております。今申し上げた宮川地区コミュニティセンターは仮の説明であります、そういう意味でこのような表現をさせてもらっております。</p>
<p>委員</p>	<p>家庭教育センターをいつも会議の場として使用させていただいております。来年度から、スタッフさんたちのデスクが本庁の方に入られるということで、今年から貸館みたいな状況になっていて、とても寂しさを感じた上に、本当にスタッフさんたちに私たち女性団体連絡協議会の関係でもお世話になりますし、ボランティアのこととか、個人的に人形劇とかいろいろ使わせていただいたり、スタッフさんに情報をいただいたり、他の人たちとの交流の場にもなっていたのですが、市役所の方に入られるということで、寂しさを今感じています。子どもの遊びの場も 0123 広場の方にだんだん集約されていく形なのだろうと思うのですが、今まですぐ近くから行かれていた方たちとか、そこを拠点としていた人たちにどうなのだろうか。そういうふうには、投げかけていらっしゃるのだろうと思うのですが、その辺が心配なところと、読み一む in ちのさんたちも高齢化という話がありましたが、女性団体連絡協議会も同じで、私が入っているいろいろな団体があるのですが、みんな私たちの年代の人たちは、昔は退職しましたらそういう団体に入っていたと思うのですが、今はいないです。社員の雇用とか、お仕事しないと年金だけでは暮らせないとか言って、お仕事されたり、第2の自分の生きがいを見つけて、活躍されていたりしているのですが、若い人というか、後継者がいないというのも、本当にこれからの課題なのかなと感じて、お話を聞かせていただきました。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>今と状況が多少変わるということに対しては、やはり寂しい感じをお持ちになっていただくというのも本当にその通りだと思いますし、うれしいことなのですが、そういった気持ちをできるだけ、与えないような工夫をさせていただきたいと思っています。施設も今まで通りお使いいただけます。ただ、この先どんな形になるかわかりませんが、お話があれば本庁の方に来ていただいたりとかもありますし、本当にできるだけご心配やご不便をおかけしないような形でさせていただきたいと思いますので、変わらず、ご利用いただき、また、子育て講座については、0123 広場の方で計画させ</p>

<p>委員</p>	<p>ていただくのですが、本当に今までとできるだけ変わらないような努力をさせていただきたいと思っていますので変わらず、ご利用いただきたいと思います。</p> <p>先ほどマーケティングの話が出ましたが、確かに誰が参加しているのかということ把握しているのかは大事な話だと思います。しかし、誰もが参加して参加した人に働きかけるという点については、私は意見が違います。必要な人のところに届いているかどうかということが大事で、何が課題で、市民がどんな課題を持っていて、それに対して、市の部署で何ができるのか、または課題に込んでいるかどうかということが把握できるのか、大事じゃないかなという気がします。</p> <p>例えば図書館に関して言えば、その目標として、個人の課題解決と生涯学習を支援するというのを挙げていますが、それに対して、どんな施策をしてそれに対応しているのかどうか、それに何の費用を支出しているのかということが、大事なのかなと思います。単にその人数、何人、何人という把握の仕方もありますが、その課題に対してきちんと対応しているのかどうかということ、満足度調査とかいろんな手法がありますので、そういった評価も考えていく段階になってきているのかなという気がします。</p> <p>課題を把握して、それに対する対応をさせていただいているのはとてもよくわかるのですが、さらに、自分たちの目標に対して、その施策が正しかったのかどうかという判断、評価をしていく必要があるかなと思いました。</p> <p>それと、遺跡のところでご説明があった文化財課のことについて、大変よくやっただいていて、各地区に回覧版でしょうか、全戸配布までしていただいているという話がありましたが、例えばその地区の米沢小学校で、遺跡の話とかをされているのでしょうか。</p> <p>私、塚原なのですが、古墳がいっぱいあるから、塚原と言っていたというのですが、学校でその話をして、地区の古墳の話聞いたかということ、あんまり記憶がないです。地区の大人も大事なのですが、子どもたちにその地区の遺跡の話やその地区の由来とかを、短い時間でもいいから教えてあげた方が、その地域住民の啓発活動という意味では効果があるのかという気がしましたが、いかがなものでしょうか。</p>
<p>文化財係長</p>	<p>文化財課では、縄文・市民科の支援を行っております。その中で、米沢小学校ですとか、北山小学校、湖東、豊平等々から出前事業、クラブなどの講師も依頼されておまして、学校ごとに年数回、縄文が中心なのですが、お話しする機会を設けております。かつて上之段遺跡でも北山小学校の子どもたちと一緒に土器を拾って、それはただの「潮干狩り」じゃなくて、今後の史跡整備につなげていくための大事な基礎調査だという位置付けで行って来ました。それと、塚原の話が出ましたので、今、永明中学校の発掘をやっただいて、大分関心も高まり、盛り上がっているような状況なのですが、昨年、課の若手職員と話をしまして、せっかく地元の関心が高まっているので、地区と一緒に何かできないかということで、いずれは市全域の文化財の保存、継承というものを視野に入れた活動を考えています。塚原の公民館の学習部ですか、そこと話をしましたが、去年は御柱祭でできなかった</p>

<p>委員</p>	<p>たです。今年こそは、塚原を手始めに公民館と連携して、子どもたちをターゲットにやっていきたいという思いがあって、公民館の方とも話をしています。</p> <p>体育施設を初めとして、公共施設が老朽化しているという話をお聞きして、スポーツ健康課に関しまして、今年度、陸上競技場の改修、公認の取得をしていただいて、大変ありがたく思っています。子どもたちも喜んで、使わせていただいています。前回、中央公民館を委員会で見させていただいて、大分、古くなってきているなど感じましたし、博物館も老朽化してきて、少しずつ手を加えているのですが、市全体としての大きな改修か、新築か。なかなか難しい部分はあると思うのですが、そういう大きな計画はあるのでしょうか。</p>
<p>生涯学習部長</p>	<p>公共施設再編計画というのがあります。市の方ではいろんな施設をどういうふうに維持、保護していかなければいけないのかという観点から、公共施設の合理化により縮小していかなければいけない。でも、建物自体は存在しているので、物理的にどうするのか、あるところに集約するとか改廃してというような話になってきます。各々の施設の話になったときにそれぞれ思い入れがあったり、地区の事情があったりとかでなかなか進みません。総論は、市はいろんな施設を維持していくには大変だから、理解はできるけど、例えば図書館の話になったときとか、中央公民館の話になったときに、いや公民館は、宮川地区で今までやってきたところなので、別のところという話になった時には当然、いろんなところの障壁が出てくるわけですね。それをみんなで理解をして 100%皆さんがいいという形は多分取れないので、どこかで妥協したり、こういうところがいいねという話をしていかないと、この問題は解決していかないのかなと思っています。そのときに重要な、例えば生涯学習施設だけまとめればいいのかではなく、市全体の中で、先ほど中央公民館長もお話しましたが、コミュニティ施設が各地区にあるので、各学校とどうするかとか、そのような話が多分出てくると思います。それにはやはり地元の理解、皆さんの理解が必要になってきます。今そういう段階です。</p> <p>例えば運動公園に限ってお話をすると老朽化施設がいっぱい存在しているので、県、国の有利な補助金を使って、再生をしたり、修繕をしたりしていくことをやりくりしながら、皆さんの希望に沿ってやっていく計画を立てています。他の公共施設についても、そのような仕組みができればいいかと思いますが、なかなか現実には難しいというのが現状で、うまくお答えになっていないと思いますが、みんなで考えていかなければいけない問題だということで、お願いしたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>練成館が一番いい例だと思うのです。練成館を使っている方たちは反対していました。機能をちの地区コミュニティセンターに持っていった。それも一つの手だったと思います。だから集約するというような方法も何か考えればいい案が出てくるのではないかと思いますので、他の施設も図書館と公民館とかも一つ考えてもいいのではないかなと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>この1年間、立てた計画について、ほぼ達成されているということに、大変、驚きもございますし、素晴らしい取組ができたというふうに感じております。振り返りますとコロナが始まった時は、立てた計画に対して、どうやっていいかわからない、実際に活動できない、取組ができないということが多かったのですが、本当に工夫をしっかりとされて、計画達成に向けて、努力されたのだなということがよくわかりました。例えば、たくさん集まれないならば人数を減らして、回数を増やすというようなことが随所でございました。コロナなれと言っではいけないかもしれませんが、この何年かで知恵が出てきたのだなと感じております。実りある1年だった。来年はさらに進化させて深めていければいいかなと感じました。</p> <p>マーケティングというお話をされて、ハッと思いました。利用者、行政としては、市民にサービスをしていく立場ですから皆さんに満遍なくということはあると思いますが、どういう方が利用されているのか、人数だけではなく、年齢層、男女もあるということなのでしょうが、そういったことをもう少し把握していくことによって取組方が少し変わっていくのかなと、変えなくてはいけないのかな。一般的に全国でも、行政が市民にサービスしていくときにマーケティングの手法が大事だと言われております。例えば図書館の取組のお話がございました。60代から70代の利用者の方が3割ですよというお話です。年齢層に向けた講座も増やしていこうかというお話いただきました。図書館としては、若い人に利用してもらいたいよねということもあると思うのですが、利用してくださっている方に対してのサービスを厚くするというのもあるでしょうし、利用してくださらないけど利用してほしいという方に対しての取組も考えなければいけないということで、人数把握だけではなくマーケティングによって、議論が深まるということだと理解しております。</p> <p>バスに乗る人が少なくなったので儲からないからバスの本数を減らす。バスの本数がどんどん減っています。のらぎあがあるからいいだろうという話だと思いますが、バスや本数がなくなるとますます利用できなくなるし、しなくなるので悪循環です。人数だけ見ていると、そうなりがちですので、全体のありよう、行政としてサービスを与える方の思いとかを議論できるベースのデータが必要かなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>家庭教育センターの事業計画、22ページに家庭教育学級という段がありますが、家庭教育力の低下が指摘されるというようなことも言葉に書かれておまして、最後に家庭教育学級のねらいは親同士が学習したいことをみずから企画し、計画的継続的に活動を行うことと書かれていますが、このねらいで実際にどんなことをされたのかということをお聞きしたいと思えます。</p>
<p>家庭教育センター館長</p>	<p>家庭における機能、教育機能の向上を図る目的で親がみずから計画し、参観日の後等に、PTA主催で講座を開催していただいています。内容は今回8小学校と4中学校等で開催いただき、宮川小学校については地域の方々を講師に、親子で様々な職業の紹介や体験を通して、将来に向けた希望の</p>

委員	<p>一助となるような内容で講演をいただきました。中学校では、中学生の生徒と関わる大人が知っておきたい思春期の子ども心の心の変化について行い、PTA で、親子に学んでいただきたい内容を考えて、計画した内容になっています。PTA の方で講演会とかを企画したことで、親同士が学び合うこと、家庭教育についての悩みとか、そういったことについて何かをすることではなく全体的ということです。</p> <p>クラウドファンディングの話がありましたが、例えば図書館について、海外、アメリカでは、図書館への寄付が盛んです。図書館に寄付したいとか、博物館に寄付したい方もいると思いますが、親父が亡くなったときに遺志金を図書館に寄付しようと思ったら、単純に資料購入費用のプラス分にはならないという話がありまして、これだけ財政難になってくればそういった手段も考えた方がいいのではないかと思います。個人の意思で、例えば博物館に寄付したいとか、図書館に寄付したいときに喜んで受けますという形にしとかなければいけないのかなという気がします。今は、寄付金などは元の予算に充てられて、市全体として還元はされますが、受け取った部署へのプラスの予算としては扱わないという状態のようなので、図書館に寄付する場合は、有効活用するために本などの現物でくださいとの話がありました。例えば、意志金は図書館にみたいな話ができれば、多少は貢献できるのかなという気がしますし、体育館でグラウンドを寄付したいという方も出てくるのではないかなと思いますので、何かそんな道もぜひ開いていただきたいという気がします。</p>
生涯学習係長	<p>5 その他</p> <p>委員に配布した資料及び委員の任期について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社教情報</li> <li>・長野県社会教育委員の手引き</li> </ul>
副委員長	<p>6 閉会</p> <p>それでは以上をもちまして、令和4年度第3回茅野市社会教育委員の会議を閉会といたします。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">～午前11時15分 会議終了～</p>